

# イチゴに残る農薬ってどうなの？

1月2週で、イチゴには多くの農薬が使われ、農薬が残留すること、無農薬栽培が難しいことを書きましたが、今回はイチゴに使われる農薬のうち、収穫期に入っても使用が認められている農薬「プロシミドン」について調べてみました。



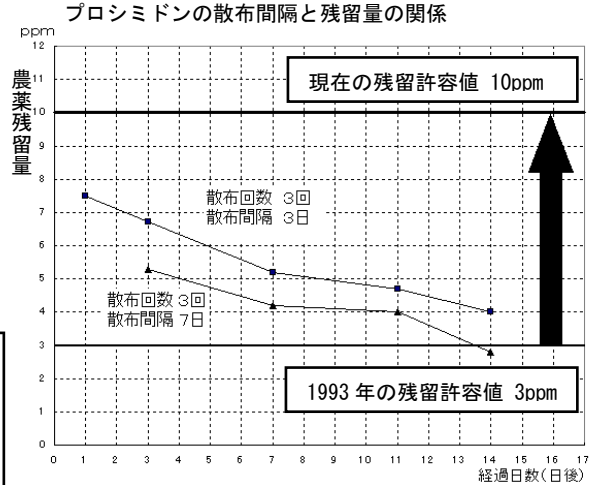
## ■イチゴって皮がないし、表面はデコボコ!・・・ってことは、農薬が多く残っているかも？

そこで、実際にどれくらいの農薬が残っているか、実験が行われました。(1993年徳島県)

右のグラフはプロシミドンをそれぞれ3日間おきで3回、7日おきで3回散布した後の残留量のグラフです。1993年の時点では、残留許容値は3ppm。これをクリアしているのは、散布間隔7日で3回の14日経過後だけ。



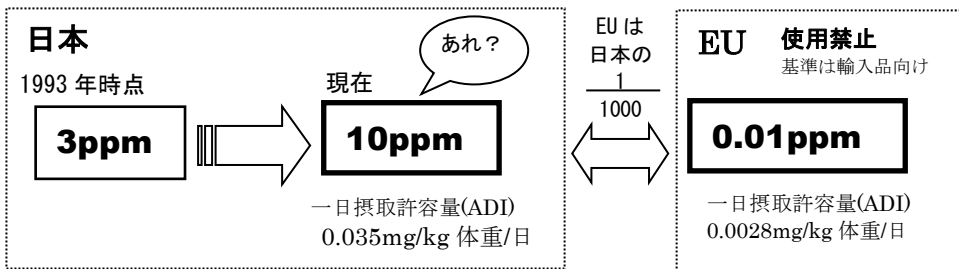
適正使用基準では散布間隔について特別な規制はないが、プロシミドンでは最高使用回数の3回まで繰り返し散布する場合、少なくとも散布間隔を14日は開けることが必要と考えられる。



一日摂取許容量 (ADI)  
ここでは農薬について、生きている間、毎日摂取し続けても影響が出ないと考えられる一日あたりの量を、体重1kgあたりで示した値。

プロシミドンの使用方法は変わらずに、残留基準値が上げたから、問題ないことになってる!

## ■じゃあ、プロシミドンの残留許容値はどうなったのかな？



## ■実際、一般のイチゴを食べるとどれくらい農薬を摂取していることになるの？

東京都の残留農薬検査でイチゴから検出されたプロシミドン

0.19ppmについて考えてみましょう!

イチゴ1パックが約300g。(ヘタは軽いのでここでは無視して計算していきます。)

6歳の子が、半パック食べたとしたら? (こどもはイチゴ大好きですね)

150gのイチゴに残っているプロシミドンは

$$0.19\text{ppm} = 0.19\text{mg/kg}$$

$$\text{プロシミドンは、} 0.19(\text{mg/kg}) \times 0.15(\text{kg}) = 0.0285\text{mg}$$

6歳児だと、体重は20kgぐらいですから、

$$0.0285\text{mg} \div 20\text{kg} = 0.001425\text{mg/kg 体重/日}$$

これはだいたいEUの摂取許容量(ADI)の**半分**です。日本のADIだと、たったの**0.04倍**です。イチゴ好きな子なら、1パック全部食べてしまうこともありますよね。すると、EUのADIを超えてしまいます。

小さな子がたくさん食べたなら? イチゴ狩りに行ったら?

EUでは影響を重く見ていますが、日本は非常に軽く見ています。

これをあなたはどのように考えますか?

## プロシミドンの毒性って？

イチゴ、野菜などでよく残留が検出されるプロシミドン(殺菌剤)は、ホルモン作用をもっており、環境ホルモン物質に特有な毒性を持っています。

1kgの実験動物に対し、12.5mgのプロシミドンの投与により

- ① 肛門性器間距離減少
- ② 尿道下裂
- ③ 精巣の萎縮
- ④ 停留精巣

1kgの実験動物に対し、2.5mgのプロシミドンの投与により

- ① 前立腺の重さの減少
  - ② 精巣の重さの増加
- などの影響がみられる。